

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2013年9月

平成24年度規格部会報告

規格部会(ISO/TC 61、ISO/TC 138及び電気材料安全関係)は、日本工業標準調査会(JISC)標準部会策定の「平成18年度標準化政策」、経済産業省策定の「国際標準化戦略目標(平成18年11月)」及び「化学分野における国際標準化アクションプラン」に則り、関係機関・団体・企業との一層緊密な連携のもと国内外の標準化活動を推進している。

ここでは、平成24年度の活動実績および平成25年度の活動計画を紹介する。

1. 国際幹事国引受け

現在、4件の幹事国を引き受けているが、現体制のなか今後もこれをひき続き維持してゆく。

現状では、更に幹事国を獲得することは、現体制では困難であるが、長期的観点から、コンビナー人材の育成をはかり基礎固めを行っていく。

2. 国際幹事国活動

TC 61/SC 11(プラスチック製品)、SC 12(熱硬化性樹脂)、SC 13(複合材料及び強化用繊維)およびTC 138(プラスチック管、継手およびバルブ類)の国際幹事として、規格開発プロジェクトの円滑な推進を進める。

平成25年度は、ISO/TC 61国際会議は中国・蘇州(9月9日～9月13日)で開催され、ISO/TC 138国際会議は、ノルウェー・オスロ(10月7日～10月11日)で開催される。日本が議長を務めるSC 11、SC 12、SC13及びTC138の会議の円滑な開催・運営を図る。

3. 国際標準開発活動

平成24年度のTC61の審議件数は191件、TC138は58件と例年並みであるが、TC61では規格開発プロジェクトは205件程度あり、内56件が日本発の国際提案で3割近くを占める。これは、依然としてTC61内の日本の地位が大であることを示している。中でも日本が幹事国をとるSC11での導電性接着剤に関する標準化9件は注目される。

平成25年度は、円滑な幹事国業務(3SC, 1TC)活動に努めこれを維持する。

4. 国際標準開発活動

平成24年度は、継続案件として次の3件の国際標準開発テーマに取り組んだ。

- ①PP/PE 再生品に関する標準化
- ②強化プラスチック材料の試験方法に関する標準化
- ③薄膜等高性能プラスチックの物理・化学的試験方法に関する標準化

その内、①③は平成25年度も継続する。

平成24年度新規案件としては期中申請であるが下記案件に取り組み、平成25年度も継続して行う。

異種材料複合体の特性評価試験方法

平成25年度の新規標準開発テーマとしては下記の2件を行う。

- ①着火可能な酸素指数に関する試験方法
- ②金属-CFRP 異種材料複合体の特性評価試験方法

5. JIS 原案作成活動

平成24年度の原案作成は次のとおりであった。

前期:4件のJIS原案を作成した。

後期:10件申請しこの10件のJIS原案を作成中である。

平成25年度から、作成区分が以前の3区分制に戻り作成する。

区分 A:申請した3件のうち1件が採択され作成ちゅうである。

区分 B:7件申請している。

6. 電気材料安全・規格関係

IEC/TC89国際会議や UL の STP への委員派遣などにより、電気製品の安全規格及びプラスチック関連試験規格の制定並びに改訂の動向を把握すると共に、業界の意向反映を行ってきた。平成25年も、国内団体と連携しIEC及び UL への国内意見の提言・フォローを行っていく。

以上